

こだま Q&A

Q56

PSA（EIA法）と PSA（高感度）との違いを教えてください。

A56

前立腺特異抗原（PSA）は、前立腺がん、前立腺肥大症で上昇しますが、特に前立腺がんでは著名に増加します。

PSA（EIA法）、PSA（高感度）共に前立腺がんのスクリーニング検査として、前立腺がんの早期診断や治療効果の判定に用いられております。

PSA（高感度）は、PSA（EIA法）に比べ、低濃度のPSAを検出するのに優れている（※下表参照）ため、スクリーニング検査のみならず、前立腺全摘除術後の経過観察、前立腺がん再発の早期発見などにもお使いいただけるとても有用な検査です。

▼検査案内

項目コード	検査項目	検査方法	基準値	検出下限値	容器	所要日数	実施料	判断料
3041-02	PSA	EIA	1.8ng/ml以下	0.9ng/ml	X	2～5日 (外注項目)	136点	144点 (生Ⅱ)
4029-02	PSA (高感度)	CLEIA	4.00ng/ml以下	0.008ng/ml	X	1～2日 (所内検査)	136点	144点 (生Ⅱ)

お問合せ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル) / 082-247-7191(ダイヤルイン)

きゃつちボール

今月は尿一般係より「尿細管上皮細胞」の話題をお届けしました。この小さな細胞が休みなく働いてくれているおかげで、私たちの腎機能は常に正常に保たれています。人体を構成する何十兆個という細胞に心から感謝！です。

ところで、尿一般部門といえば寄生虫関連の検査も重要です。以前は回虫やアニサキス、蟯虫、広節裂頭条虫、無鉤条虫等の虫体も年に1～2回は検出されていたように思います。しかし、今では寄生虫の虫体や虫卵が検出される頻度はとても少なくなったようです。これは、「日本の衛生状態が格段によくなった証拠」なのかもしれませんが、なじみの寄生虫が姿を消していくのはちょっと寂しい気もするのは私だけでしょうか？

熊川 良則（検査科免疫血清係）

広報委員

谷敷 圭美 / 亀石 猛 / 熊川 良則 / 田中 洋子 / 初岡 博 / 高磨 潤